

# ステークホルダーとのコミュニケーション

## 基本的な考え方

当グループは経営理念（ミッション）で、お客さま、社会、株主、社員をステークホルダーに掲げ、ステークホルダーの皆さまと積極的なコミュニケーションを行い、社会課題解決に努めるとともに、透明性の高い適時適切な会社情報の開示に努めています。

お客さまとのコミュニケーションについては、受託者精神（P.94）、社員とのコミュニケーションについては、人的資本（P.70）をご覧ください。

### 三井住友トラスト・グループの経営理念（ミッション）

|      |                                                                |
|------|----------------------------------------------------------------|
| お客さま | 高度な専門性と総合力を駆使して、お客さまにとってトータルなソリューションを迅速に提供してまいります。             |
| 社会   | 信託の受託者精神に立脚した高い自己規律に基づく健全な経営を実践し、社会からの揺るぎない信頼を確立してまいります。       |
| 株主   | 信託銀行グループならではの多彩な機能を融合した新しいビジネスモデルで独自の価値を創出し、株主の期待に応えてまいります。    |
| 社員   | 個々人の多様性と創造性が、組織の付加価値として存分に活かされ、働くことに夢と誇りとやりがいを持てる職場を提供してまいります。 |

## 1 社会とのコミュニケーション

社会課題解決型ビジネスを標ぼうする当グループでは、お客さまと社会のFINANCIAL WELL-BEINGの実現に向けた将来世代への金融教育や、文化・芸術・スポーツの発展に向けた協賛活動、地域に向けた活動など、社会貢献活動に取り組んでいます。また、社員一人ひとりが企業市民として社会課題に取り組む文化の醸成を企図したボランティア活動にも取り組んでいます。

例えば、当社は朝日杯将棋オープン戦に特別協賛し、文化の発展に貢献する活動を行いました。

また、三井住友トラスト・システム&サービスでは、本社を置く地域での「シニア向け無料パソコン・スマホ教室」や、「子

ども向け無料プログラミング体験教室」を開催し、地域の皆さまのお役に立てるよう活動を続けています。



第17回朝日杯将棋オープン戦  
（提供：朝日新聞社）



プログラミング体験教室の様子

### 取り組み事例

社会 社員

#### 認定NPO法人と協働したボランティア活動

三井住友信託銀行では、認定NPO法人ファミリーハウス※1と協働し、タオルで「くま」を作り、難病と闘っている子どもたちとその家族に届けるボランティア活動※2に取り組む認定特定非営利活動法人

※1 都内の専門病院で難病の治療を受ける子どもたちと家族に滞在施設や生活サポートを提供し、経済的負担の軽減に取り組む認定特定非営利活動法人

※2 ぬいぐるみは病室に持ち込めないため、衛生管理のもとタオルでくまを作ってプレゼントする活動



## 2 株主・投資家とのコミュニケーション

### 1. 個人投資家向け活動

2024年3月末時点で、当社の個人株主比率は7.6%程度です。政策保有株式の削減の進展と併せて、長期的な成長戦略にご理解をいただける個人株主を増やしていく取り組みは、資本コストの観点からも重要です。

当グループでは、2022年度より、個人株主づくりの活動に力を入れてきました。2023年度も、証券会社が主催する個人投資家向け説明会に11回参加し、延べ6,353名の方にご参加いただきました。また、雑誌・Web媒体への広告やインタビュー記事の掲載等も含めた多面的なプロモーション活動を行っています。新たな取り組みとして、三井住友信託銀行の社員3名が信託の特長を活かしたビジネスについて語る「社員インタビュー動画」や、投資家の井村俊哉氏と高倉社長との対談を実施しました。認知度向上と併せ、投資家の方々に当グループのことをより一層知っていただくために、今後もさまざまな取り組みを行っています。

なお、当グループの成長戦略などを含めた企業価値向上への取り組みをより身近に感じていただくため、これまで機関投資家に限定していた決算説明会（半期ごと開催）を当社ホームページからリアルタイムに視聴できる取り組みを始めました。加えて、株主総会では、招集通知の閲覧から議決権行使までシームレスに連動できる「株主総会ポータル」を採用し、株主の皆さまの利便性向上を図っています。

|         | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 |
|---------|--------|--------|--------|
| 説明会開催回数 | 5回     | 10回    | 11回    |
| 説明会参加者数 | 932名   | 4,204名 | 6,353名 |



投資家の井村氏との対談（YouTubeで公開）

### 2. 機関投資家向け活動

当社は機関投資家との建設的な対話を重視し、ビジネス戦略やコーポレートガバナンス、サステナビリティに関する取り組みなどをより深くご理解いただけるよう、積極的なコミュニケーションを行っています。

2023年度は、当社ホームページで株主総会前に政策保有株式銘柄リストや純資産対比の割合の開示を充実したほか、有価証券報告書では投資家からの要請・期待事項も踏まえ、社員の男女の賃金の差異等の人的資本に係る取り組みについて詳細なデータや数値の背景まで分析して公表しました。加えて、資本効率の高い成長戦略とコーポレートガバナンスをテーマに社外取締役パネルディスカッションを新たに開催しました。

機関投資家との対話を通じて、当社の考え方や取り組みをご理解いただくと同時に、いただいたご意見は、取締役会や経営会議等に定期的に報告のうえ業務運営の改善につなげています。

#### 対話の対応者（2023年度実績）

社長、社外取締役、執行役員、IR担当役員、IR室、総務部、サステナビリティ推進部等

#### 対話（2023年度実績）

|                                          |                      |
|------------------------------------------|----------------------|
| 機関投資家・アナリスト向け説明会                         | 2回                   |
| 海外IR                                     | 7回                   |
| 機関投資家・アナリストとの個別面談<br>うち役員にて実施<br>うち海外投資家 | 362件<br>188件<br>217件 |
| IR Day                                   | 3回                   |

#### 投資家の関心事項（2023年度実績）

|                     |                                                    |
|---------------------|----------------------------------------------------|
| 業績・経営戦略             | 中期経営計画で掲げた経営指標に対する道筋<br>政策保有株式の削減とベア投信の状況<br>経費の活用 |
| 資本政策                | 中期的な資本活用の方角性<br>(投資と還元のパランス)                       |
| マクロ環境・<br>リスク管理     | 日米金利の影響<br>海外不動産ノンリコースローンの取り組み状況                   |
| 経営基盤・<br>サステナビリティ関連 | 取締役会の構成<br>気候変動への対応                                |